

松本悟朗 （註） 評論家。明治十九年満島縣生れ、昭和二十年十一月十八日歿（二八六一一九四五）。初の『全譯政治の理想』（大正九年二月五日）日本評論社出版部）、『ラッセル論集』（時國理一・板橋卓一共譯、大正十年二月十八日日本評論社出版部）等、バートランド・ラッセルの譯者として登場。次でラッセル來朝時の發刊した世京思潮研究會版『ラッセル叢書』を單獨譯（『神秘主義と論理』大正十年八月一日刊、『自由教育 科學の位置』十五日刊、『物理學對感覺與料の關係』九月二日刊、『數學の形而上學者』十二日刊、『物質の究極的要素』十月二十日刊、『原因の觀念』就て直知と敘述知』十一月二十日刊等）。

他に、ダニエル・ド・レオン著『同盟罷業の意義』（譯、大正十二年二月）二十八年世京思潮研究會「世京パンフレット通信」、『近代社會思想八講』（大正十二年九月二十日新作社）、ローザ・ルクセンブルグ著『大衆罷業、黨及び組合』（譯、昭和五年十一月十六日白揚社）、ヘンリー・フォード著『僕の産業哲學』（譯、昭和五年八月五日アルス）、ウイート・クヌートゼン（クヌツドセン）著『女性錯覺』（譯、昭和六年六月二十日一元社）、『印度と濠洲』（昭和十七年九月二十日聖紀書房）、『南方共榮園讀本』（昭和十八年八月十五日新風社）等の譯著がある。

